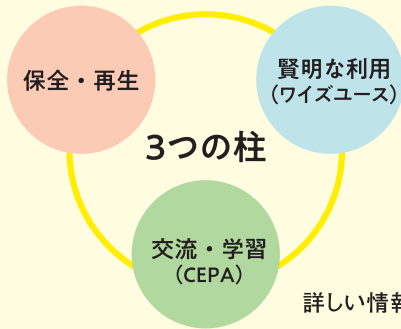


# ラムサール条約湿地について

ラムサール条約は、国際的に重要な湿地とそこに生息・生育する動植物の保全を促進するための条約で、日本は1980(昭和55)年に加入しました。湿地の「**保全・再生**」、湿地の生態系を維持しつつそこから得られる恵みを持続的に活用する「**賢明な利用(ワイズユース)**」、これらを促進する「**交流・学習(CEPA)**」の3つの柱が条約の理念となっています。



詳しい情報はこちら▲  
環境省HP

## 佐潟の自然観察におすすめ

### 佐潟自然散歩・佐潟探鳥散歩

佐潟ボランティア解説員が佐潟をご案内します。事前申し込みは不要です。お気軽にお越しください！(天候などにより館内観察となる場合があります)

- 開催日時(内容)**
- 佐潟自然散歩(植物・昆虫類・鳥類): 3~10月の第2・4土曜日 9:30~11:00
  - 佐潟探鳥散歩(鳥類が中心): 11~2月の第2・4土曜日 7:30~9:00

**集合場所** 佐潟水鳥・湿地センター



佐潟自然散歩



佐潟探鳥散歩

## 佐潟水鳥・湿地センター

ラムサール条約の理念に基づき、鳥類などの観察や湿地保全啓発の拠点として、1998(平成10)年5月に開設された施設です。館内ではスコープで野鳥を観察できます。また、野外観察用に双眼鏡を無料で貸し出しています。

〒950-2261 新潟市西区赤塚 5404-1  
TEL:025-264-3050 FAX:025-264-3051  
E-mail:sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

- 開館時間 9:00~16:30 ※11~2月の毎土日は早朝7:00開館
- 休館日 毎週月曜日(祝日、振替休日の場合は翌日)・12月29日~1月3日
- 交通のご案内 車:北陸自動車道新潟西ICより約20分、巻潟東ICより約20分

## 佐潟水鳥・湿地センター

### 野鳥観察舎「潟見鳥」



佐潟の自然は  
魅力がいっぱい!



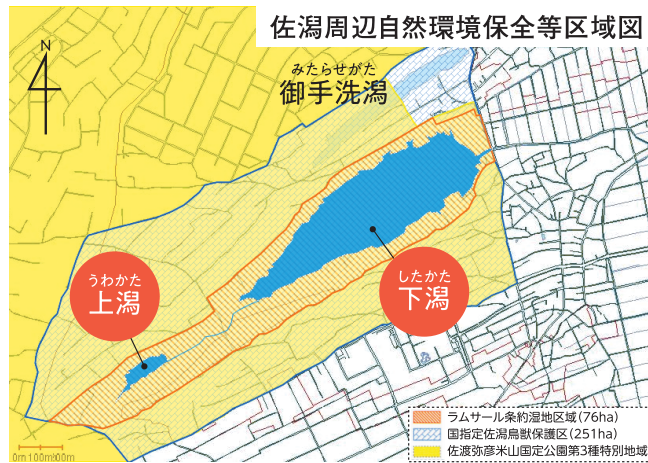
最新情報は  
こちら



佐潟ってなにがいのの？

# 佐潟の生きものを紹介します

佐潟は、新潟砂丘の砂丘列間の低地に位置し、上流側にある小さな上潟と下流側にある大きな下潟の大小2つの潟からなる淡水湖です。コハクチョウをはじめとする渡り鳥の集団渡来地として、1981(昭和56)年に国指定佐潟鳥獣保護区に指定され、1996(平成8)年にラムサール条約湿地に登録されました。



## 01 鳥類

シベリアなどから多くの渡り鳥が越冬のためにやってきます。代表的な種に、コハクチョウ、マガモ、コガモが挙げられます。これらの渡り鳥は10月～3月に佐潟で休憩しながら、周辺の水田でエサを食べます。このほかにも、湖沼や草地の留鳥やハヤブサ、チュウヒなどの猛禽類、春や夏の渡り途中の野鳥などを含め、200種以上の鳥類を記録しています。

冬鳥 コハクチョウ



10月～3月



冬鳥 マガモ

9月～4月



留鳥 カワセミ

通年

冬鳥 ミコアイサ



11月～3月

冬鳥 オオジュリン



11月～3月

夏鳥 ヨシゴイ



5月～9月

夏鳥 オオヨシキリ



5月～10月

留鳥 カムリカイツブリ



通年

留鳥 アオジ



通年

## 02 植物

これまでに650種以上の植物を記録しています。水際にはヨシやガマ、水域ではハスやヒシの群落が多く生育しているほか、オニバスやミズアオイなど絶滅のおそれのある貴重な植物も見ることができます。



ハス



オニバス



ミズアオイ



ヒシ

## 03 昆虫類

水辺環境をはじめさまざまな環境を通して、これまでに約1,000種の昆虫類を記録しています。トンボ類は市内有数の生息地であり、草地ではバッタの仲間などが多く見られます。



オオカマキリ



チョウトンボ



ゴイシジミ



ショウジョウトンボ